

FAMIC名古屋センター（愛知県名古屋市）

今号は名古屋センターの紹介です。名古屋センターは東海3県（愛知、岐阜、三重）及び北陸3県（富山、石川、福井）を業務区域としています。なかでも東海地区は、リニア中央新幹線開業が予定されており、一層の発展が期待されています。

名古屋センターは業務区域内の肥料、飼料、食品等の立入検査や科学的検査・分析を通じて食の安全と消費者の信頼の確保に取り組んでいます。

建物の外観



名古屋農林総合庁舎2号館

官庁街の真中にあり、お隣は名古屋城です。毎年7月には大相撲名古屋場所の櫓太鼓（やぐらだいこ）の音色が聞こえてきます。



施設の紹介

名古屋センターに現存する、歴史ある機器を紹介いたします。

【繊維煮沸装置】

飼料中の粗繊維を定量するために、酸、アルカリで順次煮沸するための装置です。写真の装置は昭和41年製で、約50数年に渡り名古屋センターで大事に使用しています。今でも現役で活躍中です。



【刺し】

刺しとは、工場や倉庫などで袋に入った肥料や魚粉などのサンプルを抜き取るために使用する道具です。刺しには、抜き取るものや包装袋の大きさによっていろいろな種類があります。一番上の巨大な刺し（長さ1.6m 重さ3.4kg）はトランスバッグと呼ばれる大きな袋からサンプリングする際に使用します。これを使用するには相当な体力が必要となります。



次号は神戸センターについてご紹介します。